

# アトリエ 琉游舎 だより 27号

2018年5月23日発行

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)  
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

## 琉游舎 1歳の誕生日

- 5月20日で琉游舎がオープンして1年が経ちました。1歳です。人間の1歳はまだヨチヨチ歩きもできない赤ちゃんですが琉游舎はどうでしょうか。
- ”少しずつ、できることから、あわてずに”歩き続けることができているでしょうか。
- 「写経会」「読書会」「詩話会」「映画会」の定期的な会。途中参加はちょっと敷居が高いかなと言う心配はご無用です。初参加の方にも楽しめる内容と気楽な雰囲気のを心がけています。まずは”join us!”ですね。
- 琉游舎は知り合い同士のコミュニケーションの場だけでなく、初対面の人や老いも若きも子供も一緒になって、お茶を飲み語らう”安らぎの処”。
- 学校帰りに宿題や本を読んだりして過ごす小学生もいます。お母さんが迎えに来るまで集中している姿を見ると”そのまま、その調子で頑張れ!”と応援したくなります。
- 琉游舎は一步目を歩み出して、すでに1年が経ってしまいました。次の1年もこのまま歩み続けたいと思います。
- これからも”あるがままの琉游舎”をよろしく願いいたします。

### 5月・6月のスケジュール

月 火 水			木	金	土	日
			24 映画会 13:30	25 居酒屋の会 16時~ 6月1日	26 2	27 3
28	29	30	31 映画会 13:30			3 写経会 13:30
4	5 写経会 13:30	6	7 映画会 13:30	8	9 詩話会 13:30	10
11	12 読書会 13:30	13	14 映画会 13:30	15	16	17
18	19	20	21 映画会 13:30	22	23	24

**写経会**  
6月3日(日)  
6月5日(火)  
13時半から

**読書会**  
6月12日(火)  
13時半から

**詩話会**  
6月9日(土)  
13時半から

**映画会**  
毎週木曜日  
13時半から

50代の前半、一時ランニングに打ち込んだことがあります。酒席の場の口約束で半年後の10キロの大会に出る羽目になり、完走を目的に練習を始めたのが始まりです。それから2年間は月間150キロの走り込みと、設定タイムを突破することに喜びを見出し、ハーフマラソン大会や会社の仲間とチームを組んで駅伝大会に出たりと、休日はランニング三昧の日々を過ごしていました。当時は記録の更新とレース後のお酒のために、ひたすらランニングを楽しんでいたものです。しかし50代の私の記録がぱたっと伸びなくなるには、2年もあれば充分でした。するとそれまで苦しいともつらいとも思わなかったランニングが、急に苦しくなってきました。楽しくて簡単に思われた行為が、急に難行苦行に変わってしまったのです。そんなとき、今まで以上に大きな声で頻りに耳元に聞こえてくるのが「マーラのささやき」です。そしていつかはそのささやきを受け入れてしまうことになるのです。

壁に突き当たり、心に葛藤や迷いが生じるとき、必ず聞こえてくるマーラの甘い誘惑のささやき。これをお釈迦様は何度も聞きました。「マーラ」とは訳すと「悪魔」のこと。仏教的な意味での悪魔は多様で複雑な性格を持つ存在であるため、一言で片付けることは困難なのですが、唯一言えることは「マーラとは私たちに害を加える実体のある他者ではない」ということです。私なりの解釈では私たちの心の中にある葛藤と迷いです。お釈迦様は神様でも仏様でもなく、悩み考えそして歩み続ける一人の人間です。ですから生きることは自らの内なる声との戦いの日々だったのだと思います。その「マーラのささやき」にすべて勝ってきたからこそお釈迦様はブッダ（目覚めた人）となりました。

その消息は原始仏典に数多く書き残されています。(注1)「サンユッタ・ニカーヤ」の「悪魔についての集成」の章は特にマーラとの対決の経を集めたもので、全編を通じて同じ構造です。まずマーラがお釈迦様にいろいろなことを囁きます。例えば「苦行こそが悟りへの唯一の道なのにおまえはその苦行を放棄して悟りに到達したと考えている」と、これはお釈迦様自身が自分の行いを自己検証している言葉です。このようなマーラのささやきのたびにお釈迦様は「この者は悪魔・悪しき者だ」と看破します。マーラのささやきは自分の迷いや欲望がもたらすものだと認識の言葉です。そして次のように答えます。「苦行は陸に乗り上げた船の舵や艫のように全く役に立たない。悟りへの道は戒めと精神統一と智慧に寄って成就する」と、その悟りの言葉を聞いたマーラは「尊師はわたしのことを知っておられるのだ。幸せな方はわたしのことを知っておられるのだ」と気づいて、打ち萎れ、憂いに沈み、その場で消え失せてしまうのです。

このマーラとの戦いの記録は、人のぬくもりと確信に満ちた「人間お釈迦様」の魂の記録です。これが今に多く伝わっていると言うことは、悟りの結果だけを弟子たちに語ったのではなく、自分が悟りに至る行いの紆余曲折、思考過程などすべてを正直に語ったということです。この告白により弟子たちは、お釈迦様と同じ道と一緒に歩めば、私たちも間違いなく「安らぎの処」へたどり着くことが出来ると信じたのです。「私もみんなと同じように欲や迷いや無知によって日々マーラの誘惑にひきずり込まれる危険があるんだよ」と言う赤裸々な告白ともとれるお釈迦様の教えは、弟子たちの共感を呼ばないはずはありません。自分自身の言葉を絶対化することもなく、また弟子たちもお釈迦様を神格化することなく、同行者として「行い」の道を歩む信仰者たちの、帰依と尊敬の姿が「マーラのささやき」のやりとりからも強く立ち現れてきます。

私たちの耳元で日常頻りに囁かれる悪魔のささやき。これはお釈迦様の耳元で囁かれたものと全く同じものです。生きている限り欲や怒りや無知に妥協してその場しのぎのラクな行動をとるのが私たちのありのままの姿です。そしてお釈迦様もそのような自分のありのままの姿を見て日々反省し、今以上の戒めと精神統一と智慧を積むことを自らに求め、あるべき姿に向かって次の朝を迎えたのではないのでしょうか。マーラは私たちの今のあり方をありのままに観るための鏡です。仏教の教えは絶対的な真理はどこにもなく、世界のありよう（実相）は相対的な関係（縁起）でしか捉えることは出来ないという教えです。マーラという存在があってこそ私たちのありようも観ることが出来るのです。誤解を恐れずに言えばマーラも私たちをやすらぎのところへ導く「善き友＝善知識」の一人なのです。

私は「悪魔（デーモン）から身を隠すために絶対者に従う」という日常ではなく「悪魔（マーラ）と日々向きあって対話する」という日常を過ごしたいと思います。「マーラのささやき」を日々聞くことが出来ること、それが生きている実感であり、「行い」だと思っているからです。

ところで最近ランニングを復活しました。走るたびにマーラとの対話を楽しんでいます。これが楽しいと思えている間は、あごを突き出し前屈みとなって坂道をヨタヨタ 琉游舎：戸井 出琉・恭子  
走る私の姿が、ここコリーナで見られるはず。お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152  
それではまた次号でお会いしましょう。（出琉） 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850